

地域の皆さんにお願いしたいこと・伝えたいこと

【視覚障がいのあるAさんより】

- 地域の皆さんに伝えたいことは、同じ地域で障がいを持っている人もいますということです。私は、困ったときには周囲の人に助けを求めることができます。ですが、それができない障がい者の方も多くいます。街中の道端や、公共の場所、駅構内などで、困っている「白い杖を持っている視覚障がい者」や「車椅子に乗った障がい者」を見かけたら、「何か手伝いましょうか？」と声をかけて頂けるととても助かります。視覚障がい者の駅ホームでの転落事故、踏切での車椅子の脱輪による事故が増えています。
- 災害時の避難誘導については、できる限り動かないことが一番と考え、他に思いつきませんでした。最寄りの避難場所はいくつか準備されていますが、私のような視覚障がい者の場合は、水害となると数百メートル先への避難所よりも、マンションの高層への避難の方が安心・安全だと思います。私は1階に住んでいるので、3階の空き部屋を災害時に開放してもらえるように、マンションの管理会社をお願いしているところです。ただ、地震災害や停電の場合は避難所への誘導をお願いすることになると思います。

【精神障がいのあるKさん・Nさんより】

- 皆さんも気を張られていると思いますが、イライラ・ピリピリした環境を感じ取りすぎて症状に悪影響が出てしまうことがあります。やわらかい口調やトーンで話していただけると助かります。
- 状況を受け入れるまでに時間がかかってしまうことがあるかもしれませんが、危険の迫らない範囲で「待つ」「見守る」ことを大切にしたいです。
- 窓際や隅っこなど静かな環境や仕切りなど配慮があると助かります。
- いざという時のために、自分たちのことを知っていただけたらありがたいので、日頃からの関係性作りが大切だと思っています。そっとしておいて欲しい時もありますが、声をかけていただくのは嫌ではありません。

最後に・・・

具体的な関わり方や他の障がいにつきましては、リーフレット「みんながいっしょに暮らせるまちへ」を障がい福祉課（TEL：33-1467）の窓口で配布しています。ご希望の方はお申し付けください。今回の研修によって障がいのある方が、以前よりも身近に感じていただけたら幸いです。